第１回　高津川河川整備アドバイザー会議　議事録（概要版）

日時：平成 29 年 9 月 21 日(木)　13:00～16:30
場所：益田市立水防センター
出 席 者 ：石井委員、井上委員、太田委員、大庭委員、
田原委員、広瀬委員、藤原委員、吉田委員（50 音順）
配布資料：・議事次第
・配席表
・高津川河川整備アドバイザー会議　設立趣旨
・高津川河川整備アドバイザー会議　規約（案）
・高津川河川整備アドバイザー会議　公開規定（案）
・高津川水系河川整備計画【国管理区間】事業の進捗状況

＜議事＞

（委員）

・河川整備により少しずつ野鳥に影響しているのではないかと思う。特に堤防整備が進むと川で繁殖していた鳥類（例：カワセミの巣穴）に影響が出ることが懸念される。30～40 年前と比較するとカワセミ、ヤマセミが少なくなっている。整備にあたっては鳥の営巣環境に配慮してほしい。

（委員）

・高津川はダムもなく年間を通じて流況も良く、水質も良好であるが、環境に関して県管理区間との連携はどうなっているか？

（事務局）

・水質に関しては、高津川流域の関係機関とで高津川水系水質保全連絡協議会を組織し、水質事故対応等、連携を図っている。

（委員）

・下流の市街化に伴い、人と川とのつながる機会が増える遊歩道整備等を考えてはどうか？人と川との付き合いも良くなるのではと思う。

（事務局）

・川との距離を縮めることは重要なことだと考えているが、現在の整備計画では階段の計画しかない。意見は参考にさせて頂く。

（委員）

・河床掘削は上下流のバランスをみて実施されるとのことであるが、考え方を教えてほしい。

（事務局）

・例えば、上流区間において一気に計画まで掘削を行うと、水が流れやすくなり、下流でまだ川の断面積が不足している箇所では、たくさんの水が流入し、逆に被害を起こす可能性がある。下流側の洪水を流す能力をよく考えながら、上下流に影響が出ないように河床掘削を進めていく。

（委員）

・洪水時、河道内に堆積している中州にゴミが集積し、水を堰き止めてしまう。堤防を整備しても水が堰き止められれば、上流の方は水位が上昇し、水害になる恐れがあるということで地域住民からも指摘を受けている。早急に掘削してほしい。

・JR 山陰線の鉄橋のところの樹木が路線にかかっている。樹木により川の流れを悪くし、環境が悪いよう感じられるので早急に伐採してほしい。清流日本一であっても環境は日本一悪いような感じである。

（委員）

・慣行水利の取水量は把握できていないのか。

（事務局）

・慣行水利は届け出制であり、資料には掲載していないが取水量は把握している。

（委員）

・河床掘削の掘削範囲は、河川敷のみか。平常時に水が流れているところ（低水路）の掘り下げも計画しているのか。

（事務局）

・基本的な計画の考えは平水位より上の部分の掘削である。掘削形状については、有識者の意見も踏まえ、アユの産卵場への影響や河道の長期的な維持の観点から、安富地区では水平ではなく、少し斜めに切っている。今後の河床掘削における掘削形状は、モニタリング結果も含めて検討を継続している。

（委員）

・掘削により平常時の水位を下げると、取水に影響が出ることがあるので配慮頂きたい。

（委員）

・オオキンケイギクの再繁茂対策として、平成 26 年から硫安散布をされているが効果はあったか。

（事務局）

・モニタリングを継続しているが、散布箇所では再繁茂していない。

（委員）

・アレチウリの分布状況を教えてほしい。

（事務局）

・これまでの河川巡視では確認されていない。

（委員）

・アレチウリは目立たないが、いつの間にか広がっていく。オオキンケイギクよりもアレチウリの方が広がっていて駆除できなくて厄介になっている地域もあるので注意してほしい。

（委員）

・天地返しを広範囲で導入するのは大変だと思うので、硫安散布、定期的な草刈り、例えば時期を変えたり、強度を変えたりといった複数の選択肢を用意しながら、なるべく繁殖が低減に向かうような形で計画をつくってもらえればよいと思う。

・派川は洪水時にオーバーフローさせて流すような所であり、平常時は流水がなく高津川本川と河川環境が異なる。派川は河原とは違う管理や、整備によってはより良い環境になるかと思われるので、配慮頂ければと思う。

（委員）

・整備計画策定後、約 10 年が経過したが、その間に計画の変更を余儀なくするような情勢変化はあったのか。世帯数は集計値であるため、変化が無いように見えるが地域分布は変わったのではないか。

（事務局）

・資料 P4 の人口・世帯数の統計の推移は、高津川流域を構成している益田市、津和野町、吉賀町全体を示しており、近年は横ばいである。少し細かい町字単位でみると、例えば、ある所では人口・世帯数が増えている所もある。また、以前よりも下流部においては人口・資産が増えており、河川整備を早急に実施し、早期に治水安全度を向上させる必要があると考えている。

（委員）
・国管理区間最上流の 14.2km 付近には限界集落はあるのか。
（事務局）
・国管理区間においては、限界集落はない。

（委員）
・バイパスや住宅が増えたことにより、下流部が発展しているかと思う。河川は、上流から整備していくことが原則かと思うが、下流部においては取りあえず必要なところに護岸等、整備をするというような整備手順の考え方か。
（事務局）
・他河川では例外もあるが、河川整備は下流からの整備が一般的な整備手順である。指摘のとおり、大塚の整備や益田道路といった交通網の整備等、様々な整備の複合的な効果として、この下流部が発展してきているということも考えられる。

（委員）
・市の土地区画整理事業と高津川の整備を連携して進めてほしい。
・高津川では年間を通じて流鏑馬、水郷祭、いかだ流しぐらいのイベントしかない。人々の日常的な高津川への触れ合いが少ない。

（委員）
・水防センター前に階段を設置しても、ほとんど荒地で降りられない。整備後の効果も考慮し計画する必要がある。「どういう交流を目指すか？」といった、具体的なビジョンをもって取り組んでほしい。
（事務局）
・河川整備計画の中には、防災センターの交流に関する理念は示されているが、「どういう交流を目指す」といった具体像までは明確になっていない。

（委員）
・川の駅、カヌーなど川に触れることができる整備をお願いしたい。金銭的には難しいかもしれないが、川に触れられるような整備をして市民と身近な距離になるようなことをお願いしたい。

（委員）

・ダムの無い高津川では、水量がたいへん多い時もあれば少ない時もある。昔の高津川ではアユ、ウナギ、エビ等が獲れた。年配の住民は昔の高津川を望んでいる。安心して川で遊べるようになってほしい。ダムが無いため流量の調整が難しいので、それらも踏まえて、今後の整備を進めて頂きたい。

（委員）

・アユが最近少なくなっている要因は。

（事務局）

・県の水産技術センター等の話しでは、海水温等、海での問題もあるのではないかと聞いているが、それ以外にも複数要因があるのではないかと思われる。

（委員）

・治水面においては、整備が終わっていない箇所もあるので、今後も計画どおり進めて頂ければよいと思う。若い人たちが安心して川に近づけるような整備を進めて頂きたい。

（委員）

・安富の工事においては、何をしているのだろうかといったことを市民の中で話しが出ていた。広報はしているのだろうが、もっとしっかり市民に伝えて頂きたい。

（委員）

・ハード整備だけでなく、ソフトも重要である。近隣小学校と国土交通省とで河川とふれ合えるような催しはないのか。国土交通省だけでなく、地域も一緒に巻き込みながらやっていければいいと思う。小さな頃から子どもさんたちが川に安全に接することができる機会を意図的につくるようなことも、今後考えてほしい。

（委員）

・子供が川にふれあうことが重要（簡易水質検査、川を利用した授業など）。
・子供が安心して川で遊べるように草刈をお願いしたい。
・住民ができること、国にお願いすべきこと、両者が協力していけば高津川はもっときれいになるのではないかと思う。

＜まとめ＞

（委員長）

・今回の議事をとりまとめると、ハードの進捗状況は良く、次のステップである川とのふれあいや、地域住民参加型の行事等を実施してほしいという意見が強かった。逆に言えばハードが十分で、整備が進んでおり目処が立っているからこそではないかなと感じている。ふれあいの方は時間がかかる仕事かと思うので、残り 20 年の計画においても、委員の皆さまにも参加頂き、今後ともご協力のほうよろしくお願いする。

（事務局）

・浜田河川国道事務所では本日頂いたご意見を踏まえながら、河川整備計画の基本理念に基づき、河川の整備および管理を進めてまいりたいと考えている。なお、河川整備計画の点検は基本的に事業再評価に合わせて３年ごとに実施するようになっているが、この間に流域の社会情勢の変化や地域の意向等により計画の見直しを検討する必要が生じた場合には、随時この会議を開催し、委員の皆さまから意見をいただくようになるので、その際にはよろしくお願いする。以上をもちまして「第１回高津川河川整備アドバイザー会議」を閉会とする。

以上